

令和7年（2025）度 第3回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 議事録

- 【日 時】 令和8（2026）年1月31日（土）10：00～12：00
- 【場 所】 大阪府立西成高等学校 多目的室 A
- 【出席者】 （会長）西田芳正委員（副会長）高見一夫委員 稲田智英委員
田中俊英委員 堂上勝己委員 村上由紀委員
- 【内 容】
1. 開会
 2. 校長挨拶
 3. 議事
 - (1) 「令和7年度 学校経営計画及び学校評価(案)
及び「令和8年度 学校経営計画及び学校評価(案)」
令和7(2025)年度 学校教育自己診断アンケート結果について
授業アンケート結果について
 - (2) 各学年の様子について
 - (3) 生徒生活支援室より
 4. 閉会

<開会に際して>

山田校長「昨日1/30（金）に NISHINARI フェスタを開催し、1年間の学習発表を行った。学校外から教育庁を含め地域の方々も見に来てくださり、生徒らも緊張しながら発表を頑張ってくれた。今年度は「にしなり学」を2年生でスタートさせ、一定の成果をおさめることができ、次年度は2年生、3年生での開講となるのでその準備を進めている。ステップスクールとしても3年めとなり、3学年すべてが揃い、完成の年度になる。本日は今年度の総括と、次年度の学校経営計画についてご意見いただきたい。

【事務局からの説明および各委員からの意見等】

（1）令和7年度 of 取組状況についての報告

山田校長「R7年度 学校経営計画に前回までの協議会での意見を反映させていただいた。学校経営計画の説明をする前に今年度実施した2つのアンケートについて教頭から説明させていただく。」

石川教頭

学校教育自己診断について

「1,2年の回答率が高く、出席率の影響で3年生が低くなってしまった。全体的に学校に対して肯定的な回答が高い。」

沼田教頭

授業アンケートについて

「7月、12月に2回、授業アンケートを実施した。経年比較では2年前から上がってきている。全体的な数値は高い。記述のコメントでは肯定的なコメントが多い。授業がわかるようになって嬉しかったなど。学校平均としてとても高い数値がでている。」

山田校長

令和7年度学校経営計画の評価（案）について

「数年前までは生徒や保護者の満足度は高いとは言えない状況だったが、最近は非常に高くなってきている。今年課題となったのが「ともに学び、ともに育つ」という考えに基き、インクルージョンをキーワードに教育活動を行っているが、支援学級に在籍経験のある生徒とない生徒は1:1くらいの割合となってきていて、これは他校ではあまりみられない。その中で生徒間のトラブルも起きていて、先生方は大変頑張ってくれている。なかなか時間が取れないことは理解しているが、その中で授業以外の場面で生徒の思いや話を聞いてあげる場面をもう少し増やしていきたい。また、生徒自身にルールについて考えさせることもしていきたいと考えていて、例えば学校内でのスマートフォンの扱い方や遅刻について話合わせるなど、生徒が自分事として考えることができる機会をつくりたい。今年度は「にしなり学」をはじめ、地域連携の活動を活発的にすることができた。地域の方々をはじめ多方面にご協力いただけたことが大きく、生徒たちが地域の中で褒めていただいたりすることで良い面がでてきたと感じている。また、教職員の働き方改革においては時間外勤務が720時間を超える教員が少ない人数ではあるがでてしまう可能性が高い。来年度からは年休の取得に関しても管理していくことを視野に考えていて、会議の運営についても整理して効率化を図っていきたい。

令和8年度学校経営計画（案）について

「生徒と教員との信頼関係の構築について。次年度の肝だと考える。例えば生徒が寝ている場面。授業内容がわからないから寝ていることも考えられる。生徒に「わからない？」と聞かれても「うん」とは答えない。そこで手だてをどうするか。ここに信頼関係が必要なのでは。それぞれの生徒に対してどのくらい本音を引き出すのか。教員も本気で関わらないと伝わらない。また、進路指導についても難しさがある。ここまでやらないと社会では通用しないという思いで先生方は指導してくれるが、指導が厳しすぎると生徒の意欲は削がれてしまう。進路担当の教員からは、場面場面に応じてマナーや身だしなみに気を付けてできる人というのが求められるという話を聞く。どのレベルに合わせて指導していいのか？学年、進路だけに任せるのではなく、学校全体で考える必要がある。あとは手書きの力の必要性。ICTを軽視はしないが、表現力を高めるのに手書きは非常に有用。年明けにテレビ番組で「手書きの力」について特集をしていた。西成高校も様々な場面で生徒に書かせる感想文は入力ではなく、手書きで書かせるようにしている。書くという作業の中に色々な感情が現れる。入力によって変換してくれる便利さは「正しく」は表示できるが「感情」の部分は表しにくい。会議の在り方についての部分で、「NAC」という会議について整理したい。もともと「西成高校一步前へ委員会」という名前の通り、次に西成高校で必要なことは何なのかを考える委員会であり、令和8年度はNACをより機能させたい。」

委員 「直近の計画については理解した。山田校長が退任された後の引継ぎを心配している。令和8年度はステップスクールとして3学年揃い、一定の完成の年度となるが、ここまで積み上げたものを令和9年度、令和10年度とどうなっていくのか。しっかり引き継がれるのかということを心配している。」

山田校長 「校長の人事についてはどうなるか分からない部分があるが、つみあげてきているものがあるので、取り組みは変わらない。」

- 委員 「自分の組織でも 15 年間やり続けてきて、ようやく外からのイメージが定着してきている。異動が頻繁にある学校現場では難しいが少なくとも 10 年間は今の取り組みを続ける必要があると思う。もう少し長期的な計画を示してもよいのでは。」
- 委員 「西成高校に関わった当初は退学者数をもっと多かつたし、学校評価も低かつた。このように学校が変わってきた経過を何かに残すことは考えているか」
- 山田校長 「記録については作成することを考えている」
- 委員 「計画を建てる時に必ず理念を意識して作っていただくことが大切であるので、その点は引き続きお願いしたい。」
- 委員 「NISHINRI フェスタでは生徒らが自分たちの学習内容を立派に発表していて感動した。」
- 沼田教頭 「不登校経験をした生徒が多いので、発表やグループワークについて苦手な生徒が多いのかと思っていたが、授業アンケート内の自由記述で「グループワークが楽しかった」という回答をした生徒が一定数したので、1 年生で取り組んでいる SST (N タイム) や様々な取り組みが良い影響を与えるのではないかと感じた。」
- 山田校長 「授業内で間違えても恥ずかしいことではない環境づくりをしてもらっているので、そこが強みだと思う。」
- 委員 「小学校からコミュニケーション力を高めることを意識して、どんどん発表させることを取り入れている。そこについていけない子供が不登校になってしまうのでは。西成高校のようにできなくても恥ずかしくない間違えてもいいという環境づくりは大切。」
- 委員 「学校の評価について数値だけで表現するのは分かりやすいようで伝わらない部分がある。例えば有識者に文章で評価してもらって公表するなどすると、アンケート類の数値による評価と直感的な評価を見てもらうことができる。」
- 委員 「他校である新聞部のように、生徒にインタビューさせても面白いと思う。」
- 山田校長 「今後 10 年を見据えたときに、本校が担う役割は何でどのような学校をめざしていくのか世の中の状況を見ながら考えていく必要があるが、その時に立ち戻るのが理念であり、生徒にとってのウェルビーイングとは何なのかを考えていかななくてはならない。」

(2) 各学年の様子

1 年 森山学年主任

「160 名から 158 名。2 名は、友人関係のトラブル等により転学した。1 年生は行事に積極的に参加した。カルチャーフェスタでも 150 名程度 (ほぼ全員) の参加であった。秋にはクイズ大会も実施し、生徒が主体的に問題を作成した。行事で活躍できる生徒が多くでてきている。楽しいことも大

事だがメリハリを大切にしたい。毎年クラス替えの結果、仲の良い友達と離れて登校が不安定になる生徒が少なくないので、教員間で生徒の情報についてしっかり共有して乗り越えたい。

2年 林学年主任

「にしなり学の発表には多くの生徒が参加し、良かったと思っている。普段前に出ない生徒も出て、良い感想を書いてくれた。3年生では進路活動が始まってくる。それぞれに合った就職先を見つけて卒業後、定着できるように進路指導を充実させていきたい。

3年 上田学年主任

卒業できるか心配な生徒も数名いるが何とかひっばって卒業させたい。登校状況が厳しい中で、担任をはじめ周りに声掛けしてもらいなんとかここまで来た。学年全体で行ったレクリエーションには、ほとんど来ていなかった生徒も参加できた。

進路状況について

3年 上田学年主任

未受検結果待ちは1名進行中。もう1名は4月～探していく。
今年度の求人状況は例年並み。福祉が多い。面接で落ちることもあった。
昨年度よりも欠席状況の問い合わせが多い。
今年度は進路先の決定に多くの時間を要した。

委員 2年生での中だるみという話を聞くが、意識して取り組んだことはあるか？

2年 林学年主任

グラデーションはあるが、学校に対しモチベーションの低い生徒も3年に向けて学年集会を開くなどの他、個別指導で引っ張り上げたい。1年での取り組みで校外学習、秋の校外学習が生徒も教員も楽しめたことが良かったのでは。2年でもイベントを活用してメリハリがついてきたのでは。イベントデイが効果的だったかも。eスポーツ大会など。にしなりフェスタも発表頑張った。校長先生の手書きの賞状も生徒は嬉しかったのでは。

(3) 生徒生活支援室より

森 生徒生活支援室長

1年通して変化のある生徒に対しての情報共有はかなり綿密に行ってきた。情報もとに対処している。SOS出さない（出せない）生徒もいて課題となっているが、本人の困り感がないケースもある。となりカフェは生徒の居場所として大きな役割を担っていただいている。今後もお願いしたい。

4 閉会

山田校長

次年度も引き続きよろしくお願ひしたい。

次年度に向けて、10年先までどう計画を示すかのご意見もいただいたので、見通しをもって共有して発信していきたい。